広報
さめがわ

1970
8月号
No. 201
編集兼発行
鮫川村総務課
塙町・佐藤印刷所

まず歩き、まず健康でしあわせを…





―みんなたのしく歩こう大会―

鮫川村は、今年から''体力つくりの村,,に指定されました。科学の発達、経済の成長も、その源泉は人間の体力です。村民総ぐるみで1人1人の体力を養いましょう。7月12日のみんなたのしく歩こう大会には、村長を先頭に、村内各地各界から数百人の村民が参加し、明るくたのしく、盛大な体力づくり運動第1号が繰りひろげられました。

☆8月のこよみ☆

1日　八朔、農休日、交通事故ゼロの日
6日　広島原爆記念日
8日　旧七夕
9日　長崎原爆記念日
15日　終戦記念日、全国戦没者追悼式、中盆、農休日
16日　旧盆

◉ 8月15日の正午には、全国戦没者の霊に対し1分間の黙とうを捧げましょう。

今月の人口

人口	6,699	(−11)
男	3,398	(− 7)
女	3,301	(− 4)
世帯	1,213	(+ 1)

林構林道の着工

林業構造改善事業第三年目の林道開設事業は二路線を計画しております。その一つ西山地内鮫川を横断して馬場向の森林開発を目ざす林道馬場線は、棚倉町藤田建設の請負で延長七二〇m巾員三、六m請負額八五〇万円でこのほど着工し、来春三月には立派に開通する予定です。

◎八月は、道路をまもる月間です
「きれいな道路で豊かなくらし」
道路は広く、安全に使用しましょう

診療所から（お知らせ）

前任の増山医師が茨城県に転住された後、皆様にご迷惑をかけておりましたが、今度新しく矢吹軍二医師を診療所長にお迎えすることになりました。

矢吹先生は慶応大学出身のお医者さんで、本村に着任後八月十日から診療に従事されます。

診療科目は、今までとおり内科外科です。

鮫川村国民健康保険診療所



人事

◉村長部局（八月一日付）

矢吹　軍二
鮫川村国民健康保険診療所長に任命する。

蛭田　栄（産業福祉課長）
鮫川村国民健康保険診療所長事務取扱を解く。

蛭田　三夫（主幹）
総合農政対策室長を命ずる

関根　武捷（技師）
主査に任ずる。
総合農政対策室勤務を命ずる。

前田　三郎（主事補）
主事に任ずる。
総合農政対策室勤務を命ずる

金沢　省道（主事補）
総合農政対策室勤務を命ずる。

◉農業委員会（八月一日付）

前田　三郎（主事補）
鮫川村に出向を命ずる。

根本　一美（新採用）
主事補に任ずる。
鮫川村農業委員会勤務を命ずる

なお去る四月一日付で次の二名が昇格しました。

◉村長部局（四月一日付）

大池　清敏（主事補）
主事に任ずる。

鈴木　三千男（主事補）
主事に任ずる。

他山の石・北上山系

村長　石田卯子八

（40）

今年は、阿武隈山系と同時に広域農業総合開発基本調査地域に指定された、岩手県の北上山系を視る計画を樹て、関係町村長等三七名の調査団で、去る七月二〇日から三日間これを実施しました。

北上山系は、地質構造上阿武隈山系と類似し、山容もなだらかで高いところが台状をなして平坦であるとはいうものの、全地域は一〇六万ヘクタールと広く、一〇〇〇m以上の高山が至るところに点在しているなど、スケールの大きさは、阿武隈山系の比ではありません

岩手県の開発構想では、土地利用の高度化を図り、畜産林業の開発と併行して、観光地下資源などの開発を行い、地域産業の調和ある発展を期するとしており、当然のことながら開発の総合性と地域住民の総参加を強調している点が印象的でした。

具体的な構想になると、阿武隈山系とあまり大きいちがいはなく山系を縦断する基幹道路の開設それに北部、中部、南部にそれぞれ横断連絡路線をつけることになっています。

農業開発構想の中心は、畜産の開発であつて、既存のものと合せ四〇万頭の乳肉用牛の高位生産性を維持できる一大畜産基地を形成する目標が立てられています。

そのために、一四五千ヘクタールの農用地を造成するとしており その内一四〇千ヘクタールに乳用牛一〇万頭、肉用牛二〇万頭を導入するという。五千ヘクタールには果樹、高冷地そさい、桑を計画しています。岩手県の開発計画は、直截簡明で、研究研修施設と繁殖育成施設流通加工施設などの相互連絡関係や、機能の位置づけが適切合理的に配慮されていることが感じとられました。

また肉用牛の生産組織で、中心に肉用牛生産公社牧場が計画され先発事業の一として既に実施の段階に入つております。

生産農家群、肥育農家群と公社牧場との連携流通が、現実にどのように動いているかは、時間的に知る由もなかつたが、注目すべきメカニズムであります。

しかし、全体的には本県と同じく、まだ調査～計画の過程であり周密遠大な計画も、実施をまたずしての評価が、早すぎることはもちろんであります。

なお、開発の拠点として県立種山牧野（二二三九ha）遠野市農協営荒川団地（四三六〇ha）社団法人岩手県肉用牛生産公社基幹牧場（五〇〇ha）小岩井農場（二六〇〇ha）などを見学したが、南部藩以来の畜産地域であるため、重厚な歴史と伝統の積み重ねが感じられ極めて貴重な他山の石であつたことをよろこんだのであります。ただ大きく心にかかつたのは、あの広大な北上山系を数百キロにわたつて縦走横断する中で、農家の数が極めて少なかつたことであり農業者の姿をあまり見かけなかつたことであります。

議会だより

経済性のある牛の生産

山陰地方の畜産状況を視察するため六月中旬に村議会議員一行が鳥取・島根地方に研修旅行をしましたが、その概況は次のとおりでした。

視察したのは鳥取県農協経済連の家畜市場と県種畜場ですが、場長さんの話では「この地方は昔から和牛生産では全国の先端をいったが、近年この地方から優秀な牛が全国各地に領布され品質が平均化され特色あるものではなくなった。そのために現在では品種改良に努め同じ和牛でも価格の高い経済性のある牛の生産に努力し、常に全国の先端をゆく研究を進めている。」とのことでした。

和牛の主産地として名声をあげていた、この地方も時代の波に押され四十三年度をピークに価格の低下とともに、生産頭数も減少し飼育農家も減ってきたが、かつての名人芸と言われた飼育技術から科学的な技術に移向しつつあり多頭化が進んでいるとのことです。

このような状況のなかで畜産組合は郡段階の組合を廃止し、単協から直接に県につながり中間経費の節減をはかり、市場も合併して合理化し、当日売られた牛は、その日に引取ってもらい代金も同時に受取られるシステムにしているそうです。

この地方は地域性もあるのか協業は進まないとのことで、多頭飼育といっても五頭以上は少なく同じ飼料を食わせて、より高く売れる牛の生産に力が入れられ、生産地としての地位を維持することに努力しているようです。

× × ×



種畜場で場長の説明を聞く村議視察団の一行

総合農政対策室発足す

激動する農業情勢に対処するため、村産業福祉課内に「総合農政対策室」を設けることになり、事務所を青年研修所内に置き、八月一日から業務を開始しました。業務内容は、従来の農林行政全般を担当しますが、今年度より新たに行なう業務は次のとおりです。村民皆様の格別のご協力をお願いします。

農業振興地域整備計画の策定

これは本村が農業振興地域の指定を受け法律に基づいて策定するもので、今後おゝよそ十年以上にわたり、農用地として利用する土地の区域を定めると共に、農業上の用途区分（田、畑、樹園地、採草放牧地、混牧林地）を定め、今後とも農業の振興を図るべき地域を明らかにします。そして土地の農業上の利用計画、土地基盤の整備、農地保有の合理化及び農業近代化施設の整備等、総合的な計画を策定し、国の補助事業を集中的に受けながら、計画の実現を進めます。

山村振興計画の策定と実施

自然的、経済的条件が悪い、後進地域の発展を図るもので、その振興計画の内容は、交通、産業、教育、社会厚生、国土保全、観光等各般にわたり、山村振興に必要な各種事業が盛りこまれます。計画した事業については、各種の補助を受け、明年より三ケ年間に実施されます。現在実施地域の指定を受けるため、各種の調査を進めています。

広域農業開発基本調査

阿武隈山系開発のため、国が福島市に調査事務所を設置し、本格的に山系の調査を始めました。村も国県と協調して各種の調査を行います。今年は、開発可能地内の土地利用の現況と、所有区分権利関係及び水利流量その他の調査を行います。尚国は各種の調査に基づき、開発構想の策定、開発基本計画の樹立等を進めます。

米の生産調整

米が生産過剰という現実のなかで、食糧管理法を守り、米価の安定を図るため、米の生産調整を進めます。稲から他作物への転換等誘導事業の実施、転換作物の栽培技術の普及等、農業改良普及所その他指導機関と連携して実施する計画です。

十月一日現在
五年に一回
今年は国勢調査の年です

おめでた

六月
馬場 鈴木 博子 父 重隆
反田 船木 博技 〃 正衛
二反田 松本 金子 母 孝子

七月
関下 山形美佐江 父 政雄
真坂 湯坐 幹雄 〃 照雄
福原 蛭田 和代 〃 康之

おくやみ

六月
大久保 生田目ハツヨ 63 世帯主保男

七月
上耕地 千葉八十吉 70 好子
大戸中 緑川 高之 44 キクヨ
前田 金沢 関正 53 ヨシ
青生野 中島 兼松 70 文雄
大石草 鈴木 勝治 84 勝男

8月は個人事業税の納期です

- 納税は納期内に自主的に納めましょう。
- 個人事業税第一期の納期は8月31日までです。
- 納期内の納税にご協力下さい。

福島県白河県税事務所

そ菜最盛期に入る

年間五千万円を目標!!

八月中旬になると年々増えているそ菜の出荷が盛んになります。

栽培の種類もエンゲン、大根、スイートコン、馬鈴薯、雑穀等多種にわたっていますが、栽培戸数は約四〇〇戸に達しており、現在毎日九〇〇～一、〇〇〇ケース、馬鈴薯は三〇〇俵も出荷されています。

そ菜による粗収入は、昨年で二、四〇〇万円、今年は四千万円が目標でそれにしいたけを含めると五千万円を見込まれています。

米の生産調整に伴なう転換作目としてもそ菜栽培が益々盛んになる傾向にあります。



酒垂地内で行われているそ菜の集荷状況

無謀な運転は社会の敵!!

交通安全は世界の願いであり、無謀運転や交通事故は撲滅しなければなりません。

国でも、交通安全対策基本法を制定し（去る六月一日施行）、国・都道府県・市町村が一体となり横の連けいを保ちながら交通安全の確保に対処して行くことになりました。

また、いよいよ道路交通法の一部改正法が八月二十日から施行されます。

この改正は、悪質な運転者に厳罰をもつて臨み事故を減少させようとするのがねらいであります。

とくに、飲酒運転について厳重な取締りが予想されます。運転される方は、交通ルールを守り、絶対に事故を起さないようお願い致します。

「今日も無事故、明日も無事故で　明るい家庭」

農村青年特別研修会に参加して

七月十三日から五日間猪苗代町翁島荘において開催された農村青年特別研修会に出席してまいりました。

農業への大きな夢と希望を持つている県内農村青年男女百余名が一堂に会し、専門分野の先生方より農業にかんする一般講義を受けたわけです。

この研修に臨んで感じたことは百余名全員が農業に従事し、三、四年以上の経験をもつた人々ですので、米の生産調整などゆれ動く七〇年代の農政に対処できるのはヤングパワーしかない、この若い力を最大限に発揮させるためには今後どのような農業経営をしたらよいのか、など訴える問題は切実なものがありました。

食事、休み時間、入浴、就寝にいたるまで話の種となるのは、農政や農業経営に関する問題ばかりでした。第二、第三次産業においてもいろいろな問題があると思いますが、現今の農業ほど難問が山積されている職業はないと異口同音にうつたいていました。

これらの問題をひとつ、ひとつ解決し、農業にあこがれる人にのみこれからの農村を背負う資格があるということを強く感じざるを得ません。

最後に第一次産業である農業は滅びゆく職業でないことを信じ、明日の農業への豊かな夢と希望を若い仲間同士の手で実現させようと堅く約束してまいりました。

（白坂久幸）

◇戦争犠牲者の援護相談会◇

戦争犠牲者のしあわせを高める運動推進月間行事の一つとして、県主催の援護相談会が次により行われます。

一、日時　八月二十一日
　午前九時三十分から
二、場所　石川町役場

老人健康診査のお知らせ

老後のしあわせはなんといつても身体が健康であることです。

健康を守り、楽しい生活が送られるよう健康診査を行ないますから多数受診して下さい。

◇対象者
　六十五才以上の方
◇日時と場所
◉八月二十五日午前九時三十分から午後三時まで
　鮫川村公民館
◉八月二十六日午前九時三十分から正午まで
　農協渡瀬支所
◇診査料　無料

北上山系とはどんなところか??

北上山系調査から帰つた石田村長は、広報編集委員の問に答え次のように語りました。

問　北上山系とは一口に云つてどのような所ですか。

村長　一言で云えば、阿武隈山系によくも似た所です。

問　違つている点はどういうところですか。

村長　本県のように、会津や浜通りというような対抗地域がなく全県が殆んど北上山系といつてもよいほど広大な感じのところです。

問　調査や計画の進み具合はどうですか。

村長　あまり違いはないようだがあちらの計画の方がすつきりしていると思う。

問　計画の実行の方はどうですか

村長　北上山系では、公共的施設の方は進んでいるが、農家自身の立ち上りや、実行は阿武隈山系の方が進んでいるように思つた。

問　持に感心されたことがありましたか。

村長　県立種山牧野という所を見学したが、場長は三〇年もここに勤めているという。この困難な風雪にたえてきた偉大な人生に先づ敬意を表した。この牧野はかつてピロで四〇頭もの牛を死なせて、責任者が大量に行政処分をうけ、その意味で有名になつた所だが、この場長は、入牧前の牛に人工感染を行うことでピロを絶滅したということです。

問　畜産組合や農協の活動はどうですか。

村長　遠野市の農協が、四千ヘクタールの牧野を経営しているのには驚いた。牧野経営がもうからないことは常識だが、遠野市農協は総合農協で収益を上げている見返りとして、組合員にサービスしているのだそうです。

問　肉牛生産公社というのは何をするところですか。

村長　これは県、農業団体、東北開発株式会社が共同出資で作つている社団法人で、一ケ所約五〇〇ヘクタールの牧野をもつて肉用牛の繁殖育成を行つているここで生産された牛は繁殖用素牛として衛星牧場に供給されるまた自ら雄仔牛や廃用牛を肥育するが、農協その他の共同組織に委託肥育も行わせるという仕組みで、基幹牧場は県内に一〇ケ所設置する計画で、既に先発事業として五ケ所建設しているということです。

問　今度の調査団の構成は?

村長　県阿武隈山系開発促進協議会が主催したので、私と菅野事務局長、岡崎部長が世話役をつとめた。参加者は関係町村長担当課長、方部会局長のほか、県の調査室から鈴木室長他二名国の調査事務所から斉藤調査課長が参加し、一行三七名であつた。

問　岩手県側の接遇はどんな具合でしたか。

村長　岩手の調査室長は農地林務部長が兼務しているそうだが、安藤主幹がわれわれの勉強会に来て詳細に説明をしてくれた。また現地調査には県職員二名がつききりで案内をされ、至れり尽せりの優遇に深く感謝しました。



毎年児童の夏休みを利用して小学校児童の球技大会を開いていますが今年は村の体力つくり運動の一環として7月23日に鮫小校庭で開催されました。

ソフト（男子）1位　鮫小　・　2位　西山小

フツトボール（女子）1位　西山小・2位　鮫小



スウエーデンで開催された、国際壮年マラソンで優勝した福島市の篠崎勝治さん（70才）が去る7月25日に講演のため来村されました。マラソンじいさんらしくバスには乗らず浅川駅までマラソンで所要時間も50分と若者をしのぐスピードぶりにおどろきました。

◎今月の納税◎

国民健康保険税 第三期分

納期限　8月25日

おくれず、わすれず、納期内に納めましょう。

ポンプ操法 郡大会終る

―志気旺盛―

去る七月二十一日、塙町営グラウンドで、郡内選抜強豪八チーム（自動車の部四、可搬式の部四）が参加し、三十五度を越す炎天の下で消防精神を遺憾なく発揮しながら日頃の訓練ぶりを競いました。

本村からは、村予選で一位となった自動車の部第一分団第一班（中野）と可搬式の部第五分団第一班（東石）が出場し、昨年同様県大会進出を目指しましたが、惜しくも僅少の差で優勝を逸しました

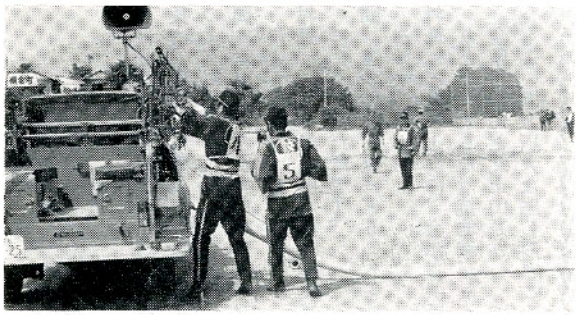
成績次のとおり

●自動車ポンプの部
一位　矢祭町第二分団
二位　鮫川村第一分団
三位　棚倉町第四分団
四位　塙　町第五分団

●可搬式の部
一位　矢祭町第一分団
二位　棚倉町第五分団
三位　鮫川村第五分団
四位　塙　町第三分団
本村出場者

●自動車の部
指揮者　大河内　平
団員　高木正則、中川西朗、宗田文男、須藤宏、須藤泰助

●可搬式の部
指揮者　中川西春美
団員　矢吹寛、前田武久、前田孝徳、前田英雄
橋本正嗣、補欠　高原勇



操作始め！指揮者の号令一下テキパキと競技は展開してゆく。

油断大敵

一寸の油断が大事を起します。プロパンガスや石油コンロ等の取扱いには十分注意して下さい。

穂いもち病防除に万全を

いもち病は早期共同防除が大切です。

防除機は各農事組合連合会に配置してあります。



納税だより

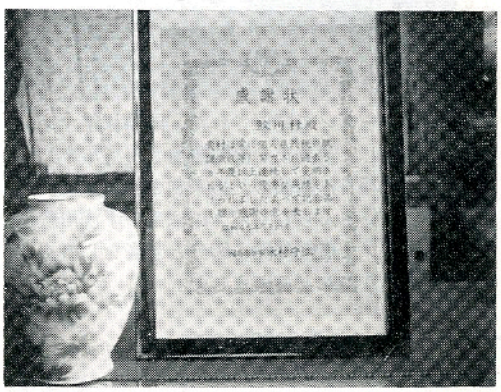
国民健康保険税の決定

今年の国民健康保険税は、第一期第二期分は暫定賦課（前年度決定額の四割）により納付していただきましたが、今月で昭和四五年度の保険税額が決定されました。

決定された年税額から暫定賦課の第一、二期分の税額を差し引き残額を三期に分けて（第三、四、五期）納めていただくことになります。

近年医療費の値上りや、保険の利用率の増加に伴ない、保険給付費が年々増額するため、本年度は前年に比して平均、六・二％の増加となりました。

保険税は、保険給付にのみ支出されるものですから、事情御理解のうえ納期内納付に御協力下さるようお願いします。



鮫川村では県民税継続五ケ年以上の完納実績で、県知事より表彰されました。

このことは住民皆様の納税に対する、理解ある御協力と、各区長、組長さんがたの御努力によるもので、深く感謝いたします。

放牧牛におこりやすい病気

